



2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年5月14日

上場会社名 株式会社 日本マイクロニクス 上場取引所 東
 コード番号 6871 URL http://www.mjc.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 正義
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 齋藤 太 TEL 0422-21-2665
 四半期報告書提出予定日 2019年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト・報道関係向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の連結業績（2018年10月1日～2019年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	15,008	△2.1	2,292	29.1	2,373	23.0	1,723	21.0
2018年9月期第2四半期	15,324	8.5	1,775	528.8	1,929	382.9	1,424	—

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 1,697百万円 (△11.6%) 2018年9月期第2四半期 1,921百万円 (57.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	44.87	—
2018年9月期第2四半期	36.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	38,513	25,193	62.8
2018年9月期	36,899	25,099	65.2

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 24,191百万円 2018年9月期 24,042百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年9月期に係る総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	19.00	19.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2019年5月14日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

3. 2019年9月期の連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期（累計）	21,700	2.8	2,500	31.6	2,600	30.0	1,900	46.2	49.46
通期	29,500	△2.0	2,600	△18.6	2,700	△21.5	2,000	△19.6	52.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2019年5月14日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年9月期2Q	40,025,316株	2018年9月期	40,025,316株
② 期末自己株式数	2019年9月期2Q	1,867,948株	2018年9月期	1,070,148株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年9月期2Q	38,412,545株	2018年9月期2Q	38,955,272株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は2019年5月14日に当社ホームページへ掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、総じて底堅く推移しているものの、主要国において製造業の景気動向に力強さが欠ける他、通商問題の動向が与える影響等の懸念もあり、依然として不透明な状況が続いております。一方、日本国内におきましては、企業収益や設備投資が、外需に対する不安要素等でやや弱含みとなりましたが、雇用・所得環境の改善により個人消費が回復基調となりました。

半導体市場は、メモリ分野において、一部メーカーの設備投資計画等に慎重な動きが出始めましたが、先端ロジック分野においては、2019年に一部で開始された5G通信を皮切りに、車載、産業機器、人工知能(AI)等の領域で用途の広がりが見え始め、堅調に推移しました。一方、FPD市場においては、テレビやスマートフォン等の需要が伸びていない状況下で、中国パネルメーカーが第10.5世代(G10.5)LCDや第6世代(G6)OLED等の設備投資を積極的に進めていることもあり、供給過剰による軟調な市況となりました。

このような状況の下、当社グループは、長期的に当社が目指す姿を纏めた『MJC Future Vision』を引き続き推進し、「QDCCSS※を更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する」企業を目指す活動に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高15,008百万円(前年同期比2.1%減)、営業利益2,292百万円(前年同期比29.1%増)、経常利益2,373百万円(前年同期比23.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,723百万円(前年同期比21.0%増)となりました。

※QDCCSS(呼称:クダックス)

お客様の信頼を得ることが大切との考えから、製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、次の6つを活動テーマとしてその改善及び改革に全ての社員の力を結集する当社独自の総合管理システム。

[6つのテーマ]

Q : Quality	(技術の向上・品質の維持)
D : Delivery	(納期の厳守)
C : Cost	(原価の低減)
C : Compliance	(法令遵守)
S : Service	(サービスの充実)
S : Safety	(労働・製品の安全)

<セグメントの状況>

(各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。)

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① プローブカード事業

ロジック向けにつきましては、市場の拡大に応じた拡販活動が業績に寄与する水準までには至らず、売上高は前年同期比で下がりました。一方、メモリ向けにつきましては、設備投資減速や生産調整等の計画などの懸念はあるものの、当第2四半期連結累計期間におけるプローブカードの需要は力強く、それを着実に取り込んだ結果、好調に推移しました。利益面におきましては、売上高が増加したことに加え、プロダクトミックスが変化した結果、増益となりました。

この結果、売上高は14,018百万円(前年同期比5.9%増)、セグメント利益は3,740百万円(前年同期比38.6%増)となりました。

② TE事業

売上高は、プローブユニットが若干伸びましたが、装置につきましては、顧客の生産調整等で設備投資計画が先送りされていることもあり、低調となりました。利益面におきましても、売上高が下がったことで減益となりました。

この結果、売上高は990百万円(前年同期比52.6%減)、セグメント損失は265百万円(前年同期は266百万円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,613百万円増加し、38,513百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が602百万円減少しましたが、現金及び預金が2,117百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,519百万円増加し、13,319百万円となりました。これは主に、短期借入金と長期借入金を合わせた借入金が695百万円、流動負債「その他」に含まれる未払金が267百万円、支払手形及び買掛金が172百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ94百万円増加し、25,193百万円となりました。これは主に、自己株式の増加に伴う純資産の減少719百万円、利益剰余金の増加983百万円等によるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ2,148百万円増加し、13,026百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は3,535百万円(前年同期比182.4%増)となりました。この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益2,346百万円、減価償却費814百万円、売上債権の減少額598百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用された資金は434百万円(前年同期は635百万円の支出)となりました。有形固定資産の売却による収入230百万円等により増加しましたが、有形固定資産の取得による支出743百万円等により減少しました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用された資金は967百万円(前年同期は496百万円の支出)となりました。短期借入金と長期借入金の純借入額699百万円により増加しましたが、配当金の支払額740百万円、自己株式の取得による支出719百万円等により減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループが属する半導体、FPD市場の直近の市場環境及び動向等を踏まえ、新たに2019年9月期通期業績予想を開示いたしました。詳細につきましては、本日(2019年5月14日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,186	13,304
受取手形及び売掛金	7,034	6,431
製品	522	499
仕掛品	2,356	2,406
原材料及び貯蔵品	1,367	1,282
その他	388	415
貸倒引当金	△56	△59
流動資産合計	22,800	24,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,589	3,442
機械装置及び運搬具(純額)	2,695	2,727
その他(純額)	3,098	3,577
有形固定資産合計	9,383	9,746
無形固定資産	1,042	1,030
投資その他の資産		
投資有価証券	3,060	2,950
退職給付に係る資産	75	57
その他	717	622
貸倒引当金	△180	△174
投資その他の資産合計	3,673	3,455
固定資産合計	14,099	14,233
資産合計	36,899	38,513
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,459	4,632
短期借入金	777	1,266
未払法人税等	467	453
賞与引当金	707	660
役員賞与引当金	100	—
製品保証引当金	264	376
その他	2,201	2,866
流動負債合計	8,979	10,256
固定負債		
長期借入金	562	769
退職給付に係る負債	1,907	1,962
その他	351	331
固定負債合計	2,820	3,063
負債合計	11,799	13,319

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,018	5,018
資本剰余金	5,934	5,934
利益剰余金	12,111	13,094
自己株式	△943	△1,663
株主資本合計	22,120	22,384
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,735	1,656
為替換算調整勘定	132	103
退職給付に係る調整累計額	54	48
その他の包括利益累計額合計	1,921	1,807
新株予約権	245	269
非支配株主持分	811	732
純資産合計	25,099	25,193
負債純資産合計	36,899	38,513

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上高	15,324	15,008
売上原価	9,436	8,573
売上総利益	5,887	6,434
販売費及び一般管理費	4,112	4,142
営業利益	1,775	2,292
営業外収益		
受取利息	10	8
受取配当金	107	8
受取賃貸料	35	37
保険解約返戻金	—	27
その他	22	19
営業外収益合計	176	101
営業外費用		
支払利息	4	4
支払手数料	7	7
休止固定資産減価償却費	7	2
為替差損	0	3
その他	1	1
営業外費用合計	21	19
経常利益	1,929	2,373
特別利益		
固定資産売却益	4	—
新株予約権戻入益	—	2
特別利益合計	4	2
特別損失		
固定資産売却損	—	24
固定資産除却損	6	4
特別損失合計	6	29
税金等調整前四半期純利益	1,928	2,346
法人税、住民税及び事業税	389	481
法人税等調整額	△29	16
法人税等合計	360	498
四半期純利益	1,568	1,848
非支配株主に帰属する四半期純利益	143	125
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,424	1,723

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	1,568	1,848
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	81	△78
為替換算調整勘定	288	△66
退職給付に係る調整額	△17	△6
その他の包括利益合計	352	△150
四半期包括利益	1,921	1,697
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,706	1,609
非支配株主に係る四半期包括利益	215	88

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,928	2,346
減価償却費	753	814
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	40	51
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	5	9
賞与引当金の増減額(△は減少)	35	△46
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△24	111
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△2
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△40	△100
受取利息及び受取配当金	△118	△16
支払利息	4	4
売上債権の増減額(△は増加)	△289	598
たな卸資産の増減額(△は増加)	△685	67
仕入債務の増減額(△は減少)	△249	172
その他	△41	7
小計	1,321	4,019
利息及び配当金の受取額	117	16
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額	△182	△495
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,251	3,535
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△322	△104
定期預金の払戻による収入	496	135
有形固定資産の取得による支出	△718	△743
有形固定資産の売却による収入	4	230
その他の支出	△104	△83
その他の収入	8	130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△635	△434
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	480	837
短期借入金の返済による支出	△453	△480
長期借入れによる収入	700	700
長期借入金の返済による支出	△382	△358
自己株式の取得による支出	—	△719
連結の範囲の変更を伴わない関係会社出資金の取得による支出	△303	—
配当金の支払額	△389	△740
非支配株主への配当金の支払額	△147	△207
財務活動によるキャッシュ・フロー	△496	△967
現金及び現金同等物に係る換算差額	106	15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	226	2,148
現金及び現金同等物の期首残高	8,740	10,877
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,966	13,026

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,235	2,088	15,324	—	15,324
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,235	2,088	15,324	—	15,324
セグメント利益	2,698	266	2,965	△1,190	1,775

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,190百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,018	990	15,008	—	15,008
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,018	990	15,008	—	15,008
セグメント利益又は損失 (△)	3,740	△265	3,474	△1,182	2,292

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,182百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。